

SAMPLE

特集レポート No. 096

新型コロナウイルス後の世界を見据えた
日本経済の展望

Strictly Confidential



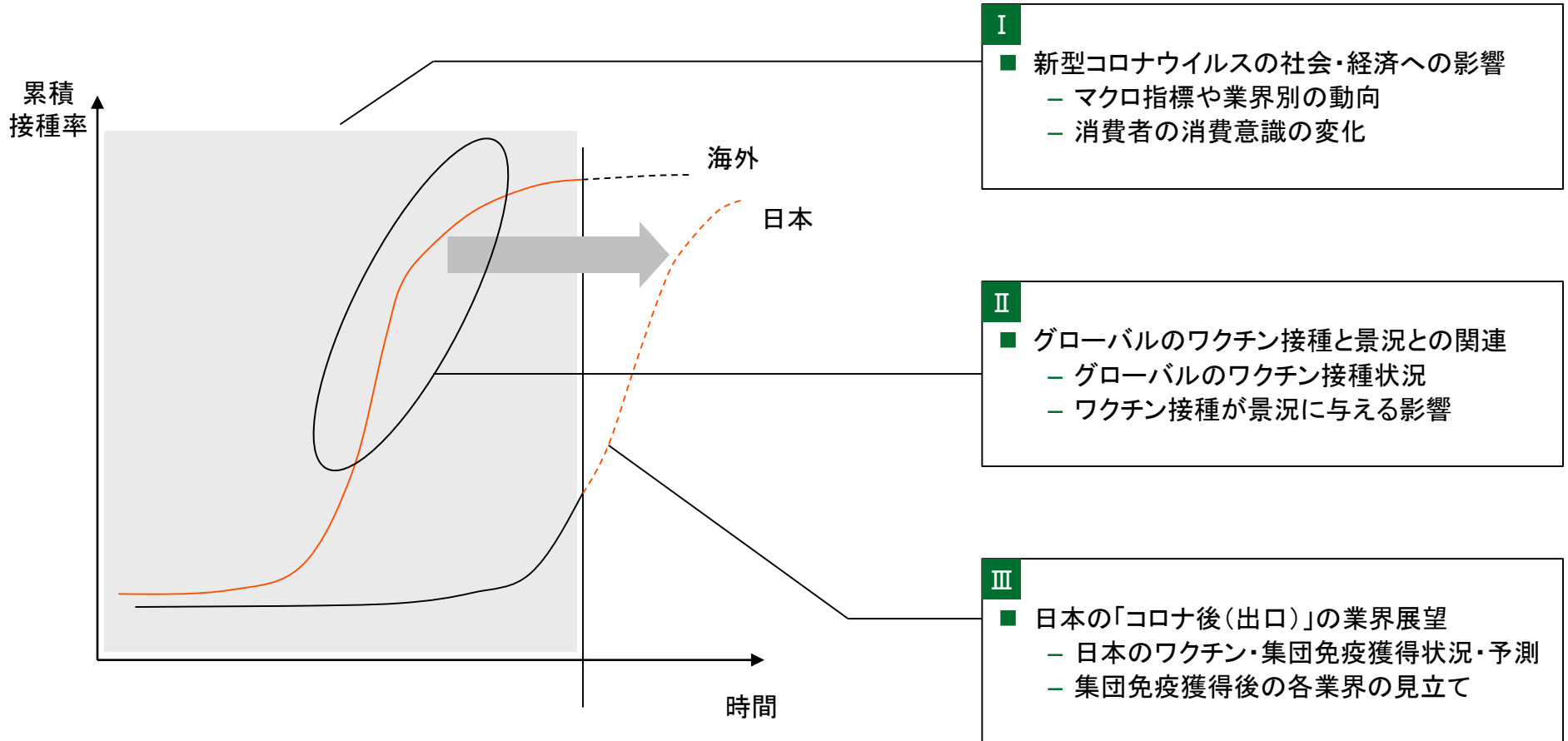
2021年06月30日

はじめに

- 2020年は世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大し、経済活動だけでなく社会のシステムや人々の生活が変化する1年となった
- 2021年に入り、新型コロナウイルスに対するワクチン接種が本格化し、ワクチン接種が一巡したアメリカやイギリスでは消費活動や景気が回復しつつあり、「コロナ禍」の出口は近いと言える
- 日本も海外に遅れるかたちでワクチンの大規模接種がすすんでおり、今後の消費活動や景気の回復が期待される
- 本レポートでは、ワクチン接種・免疫獲得の状況とマクロ経済や消費動向との関連を見ていくとともに、日本の「コロナ後」の業界の展望を記載していく

本レポートの構成

- 本レポートは「Ⅰ.新型コロナウイルスの社会・経済への影響」、「Ⅱ.グローバルのワクチン接種と景況との関連」、「Ⅲ.日本の「コロナ後(出口)」の業界展望」の構成である



本資料の流れ

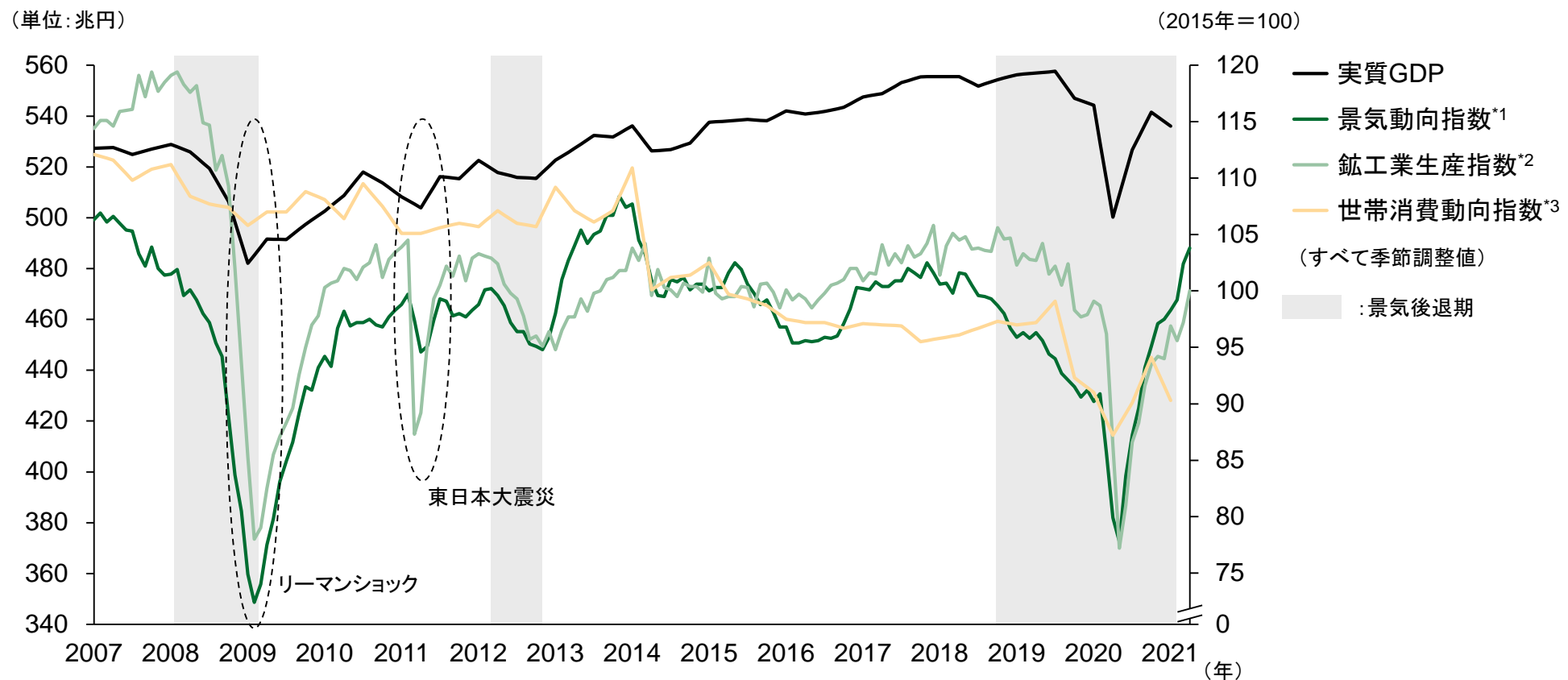


- I. 新型コロナウイルスの社会・経済への影響
- II. グローバルのワクチン接種と景況との関連
- III. 日本の「コロナ後(出口)」の業界展望
 1. 日本のワクチン・集団免疫獲得状況・予測
 2. 集団免疫獲得後の各業界の見立て

新型コロナウイルスの経済への影響

■ 新型コロナウイルスはリーマンショックに匹敵する影響を経済活動に与えたが、徐々に回復しつつある

日本の実質GDPとマクロ指標の推移



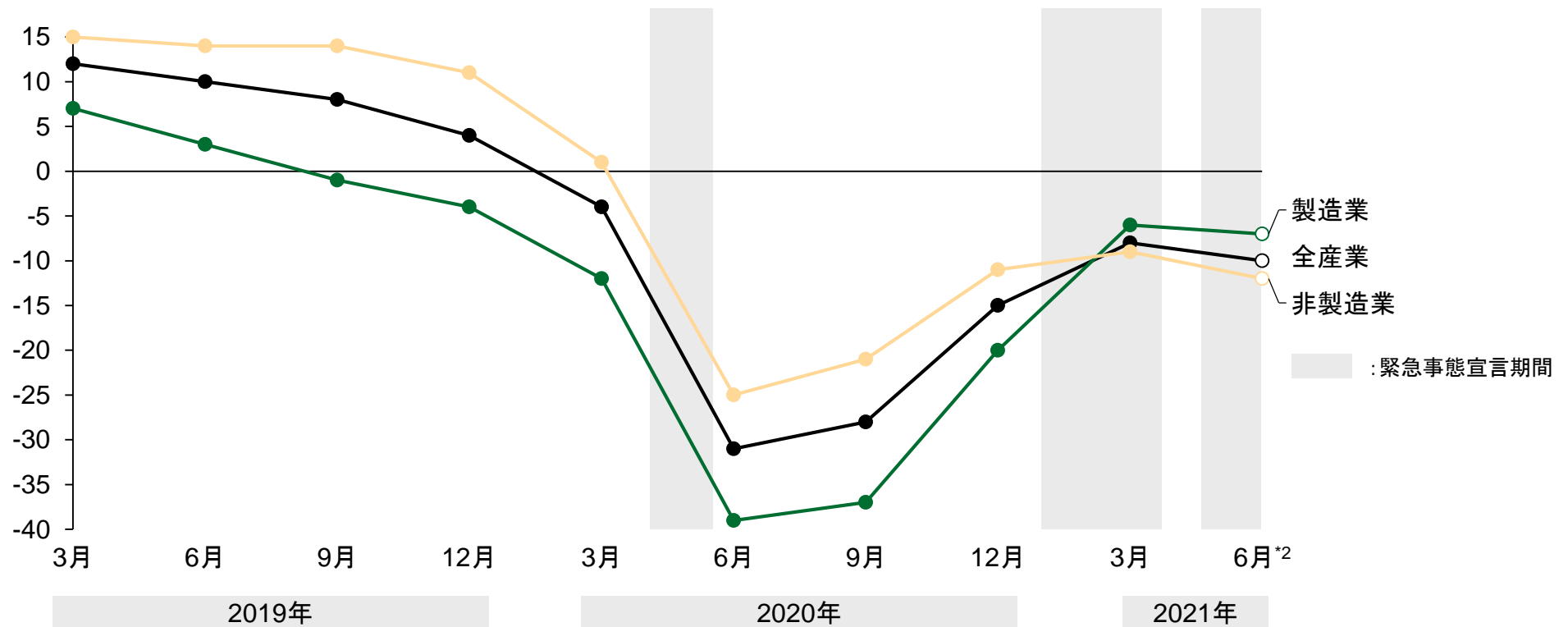
注: *1. 景気動向指数とは産業、金融、労働など、経済に重要かつ景気に敏感な28項目の景気指標をもとに算出される指数
 *2. 鉱工業生産指数とは経済産業省生産動態統計などをもとに、鉱業・製造工業の生産、出荷、在庫動向や、生産能力・稼働率を表す指標
 *3. 世帯の消費支出の平均額の推移を示す指数

出所: 内閣府「国民経済計算」、内閣府「景気動向指数」、経済産業省「鉱工業指数」、総務省「消費動向指数」、内閣府「景気基準日付」

産業界の業況見通し動向

- 産業界の業況感は、2020年6月に底を打った。その後上向いてきているもののコロナ前の水準には至っていない

DI値*1の動向



注: *1. DI値とはDiffusion Indexの略で、企業の業況感や設備、雇用人員の過不足などの各種判断を指数化したもの。各判断項目について3個の選択肢を用意し、選択肢毎の回答社数を単純集計し、 $DI = (\text{第1選択肢の回答社数構成百分比}) - (\text{第3選択肢の回答社数構成百分比})$ で算出。選択肢は(1)良い、(2)さほど良くない、(3)悪い。

*2. 2021年6月の値は、2021年3月調査時点での予測値

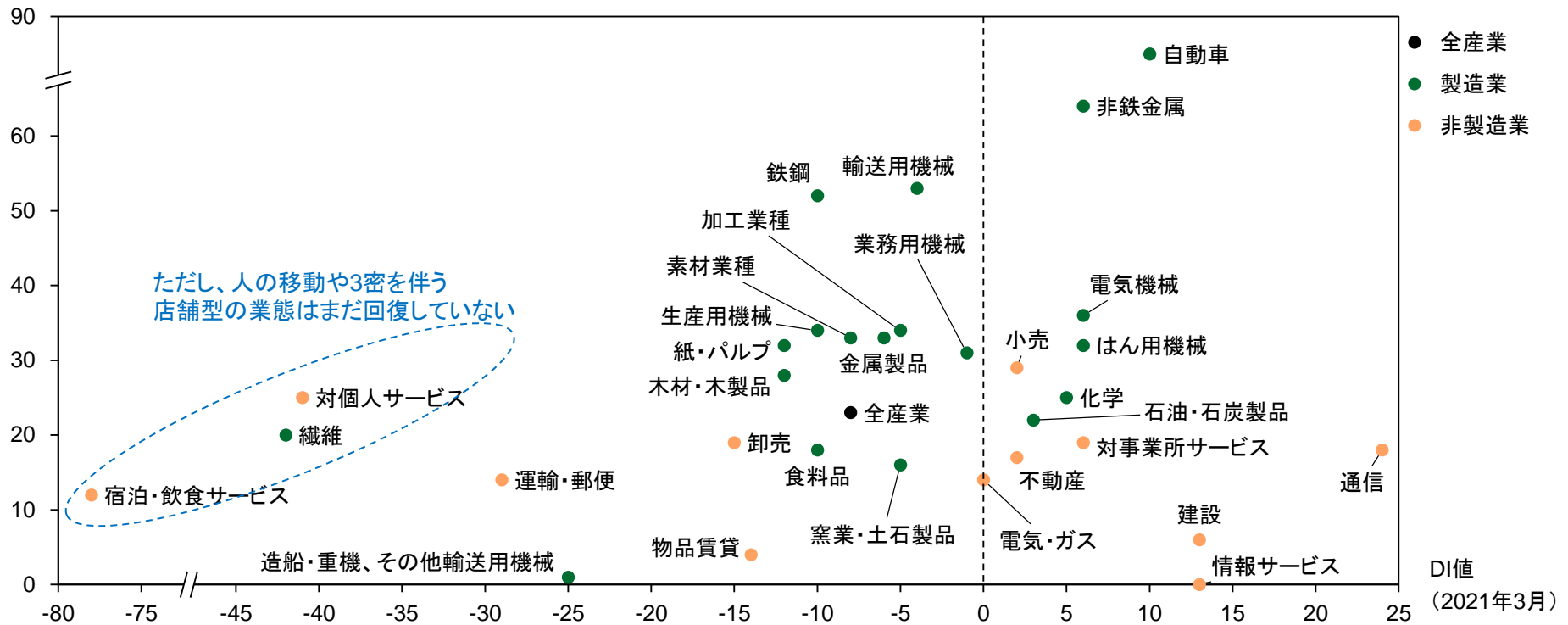
出所: 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

業界別の動向

■ 産業界ではすべての業界で2020年6月時点よりも業況の見通しが明るくなっている

業界別のDI値(全規模合計)*1の動向

DI値の変化
(2020年6月→2021年3月)



注: *1. DI値とはDiffusion Indexの略で、企業の業況感や設備、雇用人員の過不足などの各種判断を指数化したもの。各判断項目について3個の選択肢を用意し、選択肢毎の回答社数を単純集計し、 $DI = (\text{第1選択肢の回答社数構成百分比}) - (\text{第3選択肢の回答社数構成百分比})$ で算出。選択肢は(1)良い、(2)さほど良くない、(3)悪い。

出所: 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に関及し、「打ち手」を導出します。

